２０２４年1月9日（火）

老球の細道７６８号

スタートは挫折から

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

遂に今年は古稀を迎えてしまった。満７０歳をなぜ古希というのかわからなかった。身体がコキコキして自由が利かないからかと思っていたが、そうではなかった。中国唐代の詩人・杜甫の「人生７０古来稀なり」が語源だという。

私には歳をとった自覚症状はないのだが、昔話や同じ話の繰り返しが多くなった。都はるみの歌で「むかし♫」（阿久悠作詞　宇崎竜童作曲）というのがある。アップテンポの曲もいいが、歌詞がすばらしい。簡単にまとめると次のような内容である。

【年を重ねると、身体の中に小さなお化けが住み着く。名前が「むかし」という。こいつに住みつかれると人はダメになってしまう。なぜなら、そのお化けは昔話でいい気持ちにさせる。昔はいいことばかり。あの日、あの時でうっとりさせ、人間をダメにする。気をつけなよ「むかし」】

過去の栄光にいつまでも浸って、未来に向けてチャレンジすることを忘れた人間に対する戒めの歌だろうか。演歌の大御所、都はるみがこんなすばらしい歌を歌っていたとは今まで知らなかった。しかも宇崎竜童の作曲である。演歌界にもミスマッチがあった。

正月明け早々にU-１５新人地区大会が行われた。１，２回戦からベスト４までが終了したが、とんでもない大差で勝敗が決まるゲームが数多くあった。ミニの経験者がいる、いないで多少の実力差はあるだろうが、中学校に入学して１年または２年経つこの時期になったら皆同じ経験者である。もう少し点差の少ない試合になっても良さそうだと思うのだが・・・・・。指導者も同じである。部の顧問を３年も経験したら皆専門の指導者である。

大会を観戦して心配したことは、勝ち上がるチームが次のレベルに向けてどのように強化するかより、コテンパに負けたチームが次の大会に向けてどのように準備したら良いのかということである。このような挫折をしたチームは部員がやる気を失い、最悪は退部してしまうケースがあるからである。私も現役コーチ時代何度も経験した。

バスケットボールの指導は、勝敗だけでなく、「あきらめない」ことも指導する。挫折の悔しさから立ち上がって、あきらめないで努力を地道に継続することから道は開けると偉人やバスケットチーム創りの歴史は教えている。「あきらめ」と「決めつけ（あそこには勝てない)」、そして「努力の軽視」が大敗諸悪の根源である。

私が坂下高校コーチ時代に心がけたことは、開会式前に会場へ一番乗りして練習する。開会式では中央に整列する。1回戦で負けても最終日まで会場に集合し、強いチームの試合を観戦、大会運営のお手伝いをする。大会会場においては、空いている時間、場所を見つけてできる限りの練習をする。悔しさがまだ残っているうちに次のスタートを切ることである。

やはり昔話をしてしまった。負け続けて自信を失くしている選手に歓喜の涙を出させることは指導者の醍醐味である。選手を変える、チームを変えるのは指導者しかいない。